

# 宿縁

十二月号

千葉県市川市国府台五丁目二十六番三十九号

浄土真宗  
本願寺派

## 中原寺

TEL 〇四七—三七二—〇二九二  
FAX 〇四七—三七二—〇二六二

### 見えない世界を 信じる意味



漫画家水木しげるさんと作家野坂昭如さんが相次いで亡くなりました。  
野坂さんは色々なジャンルで多彩に活躍した方ですが直木賞受賞作となった「火垂るの墓」はアニメ映画にもなり、あまりにも有名です。野坂さんの実母は野坂さんを産んで二日後に死去。生後半年で養子に出され、その後、上の妹を病気で、1945年の神戸大空襲で養父を、下の妹を疎開先の福井県で栄養失調で亡くしました。後にこの妹を亡くし

た贖罪のつもりで「火垂るの墓」を書き、直木賞受賞作となりました。

一方、水木さんは「ゲゲゲの鬼太郎」「悪魔くん」のような妖怪漫画で知られ、また「総員玉碎せよ！」などの戦争物でも知られました。特に近年のNHK朝のドラマ「ゲゲゲの女房」がドラマ化されて、その人柄は国民的親しきを持たれていました。水木しげるさんは21歳で応召し、南洋の激戦地に行かされ、凄惨な殺戮の中で戦友たちは次々と命を落とし、自らも左腕を失いました。戦争は人殺しであるという現実を、身をもって知りました。

野坂さんは骨っぽい個性派、水木さんは茫洋とした性格と二人の生きかたには大きな違いを感じましたが、共通しているのは人間の愚かさから生まれる戦争の惨めさを体をもって知っていたからこそ、その生涯を通じて反戦の姿勢を貫いたことだといえます。

さて、その年の世相を漢字一文字で表す今年の漢字が先日「安」と発表されました。「安全保障関連法案」が審議され、その採決に国民の関心が高まったことや、世界で頻発するテロ事件や異常気象など、人々を不「安」にさせた年、などが理由だそうです。

しかしいつも案じられるのは身の回りにおきる事象を眺め物にしている私たちの姿

です。人はブツダ釈尊の最後の教えを「座右の銘」とし、実践しない限り、真の安らぎを得られることはないと思います。

『釈尊はクシナガラの郊外、沙羅樹の林の中で最後の教えを説かれた。』

弟子たちよ、おまえたちは、おのおの、自らを灯火とし、自らをよりどころとせよ、他を頼りとしてはならない。この法（教え）を灯火とし、よりどころとせよ、他の教えをよりどころとしてはならない。

弟子たちよ、これまでおまえたちのために説いたわたしの教えは、常に聞き、常に考え、常に修めて捨ててはならない。もし教えのとおりに行うなら常に幸いに満たされるであろう。

教えのかなめは心を修めることにある。だから、欲をおさえておのれに克つことに努めなければならない。身を正し、心を正し、ことばをまことあるものにしなければならぬ。食ることをやめ、怒りをなくし、悪を遠ざけ、常に無常を忘れてはならない。

心に従わず、心の主となれ。心は人を仏にし、また、畜生にする。迷って鬼となり、さとつて仏と成るのもみな、この心のしわざである。

だから、よく心を正しくし、道に外れないように努めるがよい。』

（仏教聖典より）

昔から、鳥がまさに死なんとする時に、その鳴く声は、なんともいえないほど哀しく、

人が死にのぞんでの言葉は、真実で、しかも、これだけはどうしても言っておきたいと思ふ、もつとも大切なことを言い遺すといわれています。勿論凡夫の身として生きる虚仮不実の私たちとは違い、ブツダ釈尊の言葉は比べることのできない金言ゆえに、その願いに背く人間の生き方は自らが苦悩の連鎖を引き起こして止むことはありません。

しかし憂いに満ちた中にも私たちの周囲には醜い人間の心の舵を矯正させてくれる人や言葉があります。

水木さんは「水木サン」の幸福論で、何十年にもわたって幸福な人、不幸な人を観察してきた経験から見つけ出した、幸せになるための知恵を7か条にまとめています。

その中で、⑦「目にみえない世界を信じる」ことを訴えました。

この世には物質的な価値観ではとらえきれないものがあり、それこそがひとの心を豊かにしてくれるということです。名著「星の王子さま」の有名なセリフにも、『じやあ秘密を教えるよ、とても簡単なことだ。そのことはね、心で見なくてはよく見えない。本当に大切なことは目には見えない。君のバラをかがえのけないものにしたのは、君がバラのために費やした時間だったんだよ』と。

それは、この世に生きながらこの世ならざる世界を信じていることです。この世しか持たない人よりも、あの世があると思う人の方が、この世を豊かに生きることができます。そのことを教えてくれる存在こそ、他ならぬこの世の者ならざる愛すべき妖怪たちであったといえないでしょうか。

【寺灯雑記】

○報恩講法要2日間にわたり勤まる

11/20～21

浄土真宗門徒にとつて最も大切な行事である宗祖親鸞聖人報恩講法要が20日の初夜、21日の晨朝、日中、満座と4座にわたって修行されました。

20日の夕方5時から開かれた「親鸞さまを讃える音楽の夕べ」では、浦和の最勝寺讃歌の友”が出演、女性コーラス8名が美しい歌声を披露してくれました。「礼讃無量寿」、「和讃・弥陀の名号称えつつ」、「芬陀利華」、「なもあみだぶつ」、「生きる」の仏教讃歌5曲を最勝寺前坊守さん解説・指揮によって披露、また「もみじ」、「故郷」の2曲を会場の皆さんと一緒に楽しく歌いました。  
最勝寺さんは東京教区内寺院でも以前からコーラスの活動があるお寺で、このたび当寺へ来訪されその歌声を聞かせてくださいました。

また恒例となった「夜灯し」の紙絵灯籠(子どもたちや門信徒の作品)が山門から本堂までの参道に沢山設えられ、その灯りは静かなそして温かな夜の雰囲気を演出しました。  
今年の報恩講法要は彦根市報恩寺の藤實無極師が「念仏と信心」との講題で法話され、如来回向の本願念仏による信心のかなめを3座にわたってお聞かせいただきました。  
2日間、暖かい陽気に恵まれての報恩講法要でしたが、いつもながらに婦人会の皆さんのお齋作り、壮年会の皆さんのお手伝いとお世話をいただきありがとうございます。

○門信徒会役員会を開く

12/5

現役員が今年で任期満了を迎える門信徒会役員会は16名が出席して開かれました。

主な議題では、今秋行われた文化講演会の決算報告。本山における明年秋からの本願寺新門主伝灯奉告法要の団体参拝、宗派の長期総合計画による寺院・門信徒への懇志進納依頼の件。役員任期の改選、明年度の行事計画等について話し合いがもたれました。

○安楽寺さんの壮年会一行が来訪

12/8

水戸の安楽寺さん一行22名が8日午後研修旅行の中で当寺に来訪しました。

この日は朝6時過ぎに水戸をマイクロバスで出発、築地本願寺での「成道会」記念布教大会に参詣して、午前中の法話を聞いたのちに帰途、当寺へ立ち寄られました。

ご一行は到着後、本堂で前任職から中原寺の源流と沿革を聞き、会館に移って出迎えた当寺婦人会・壮年会の役員7名との和やかな懇談の場を持ちました。

当寺の婦人会、壮年会の活動を聞いて良い研修ができ、これをご縁に皆様との交流が出来ればとの礼状をいただきました。

○お仏飯米進納に感謝

- \* 福島道宏様
- \* 錦織春海様
- \* 橋口俊信様

○婦人会で簡単なヨガ体操

婦人会では会員の渡部喬子さんの指導で毎月の例会の折に誰でも無理なくできるヨガ体操をしています。

頭も体もとてもすっきりして好評です。気軽に参加ください。

【平成28年回表】

- \* 1周忌 平成27年
  - \* 3回忌 平成26年
  - \* 7回忌 平成22年
  - \* 13回忌 平成16年
  - \* 17回忌 平成12年
  - \* 23回忌 平成6年
  - \* 25回忌 平成4年
  - \* 27回忌 平成2年
  - \* 33回忌 昭和59年
  - \* 50回忌 昭和42年
- 年回法要は右の表をご参照ください。

【ご案内】

☆元旦修正会

一月一日(祝) 午前八時

- ・ 正信念仏偈
- ・ 年頭法話 住職・前任職
- ・ ご流盃の儀

・ お雑煮接待 (九時半終了予定)

新年を迎え、仏祖に礼拝し、こころ新たに  
お念仏とともに報恩の生活の第一歩をふみだす法要です。

お念仏に生かされる者として、浄土真宗の法要・行事のすべてが大切な聞法となるところから、世間でいう「本年は喪中につき」という考えは正しいものではありません。

「仏法に明日ということはあるまじき、仏法のことには急げ急げ」です。

どうぞ年明け皆様でお参りください。

☆お寺でヨガ

一月十二日(火) 午前十時

千葉市にあるヨガソルナのインストラクター酒本侑子先生を講師にお招きし、初心者でも気軽に始められます。参加費千円。

【法座・行事案内】

○和讃に学ぶ (講師：前任職)

十二月二十六日(土) 三時

○山門、石段清掃奉仕

十二月二十八日(月) 十時

○いのちの居場所を考える会

一月八日(金) 十時半

「場の思想」で著名な北国分にお住いの東京大学名誉教授、場の研究所所長清水博先生を囲む地域に開かれた集いです。関心のある方は誰でも参加できます。

○婦人会総会・新年会

一月九日(土) 十一時

○常例法座

一月十七日(日) 一時

○門信徒会役員会

一月十七日(日) 三時半

○壮年会総会・新年会

一月二十四日(日) 三時

○和讃に学ぶ (講師：前任職)

【十二月の掲示板のことば】

すべてのものは  
ひとりで成り立つものではない